

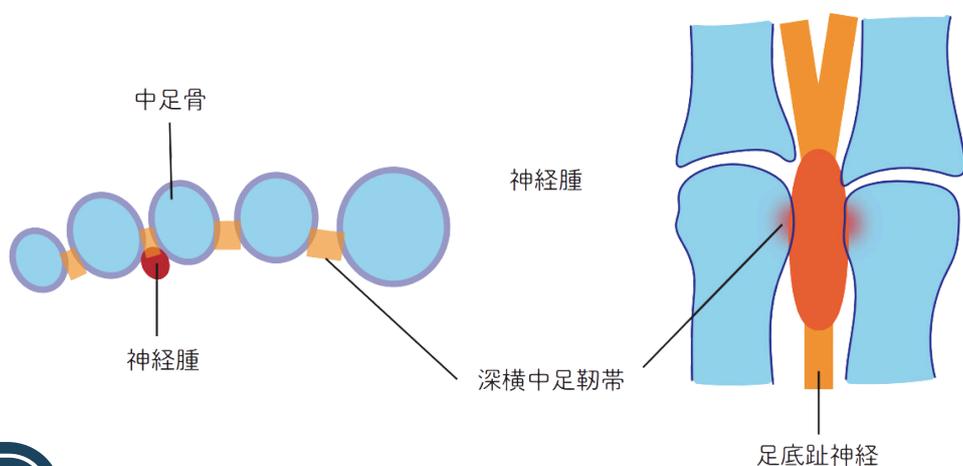


morton's neuroma

モートン神経腫

原因

足趾に向かう神経は、指の間をすり抜けるように走行します。骨の間は靭帯で強固に連結されており、特に第2趾と第3趾、第3趾と第4趾の間は狭くなっています。これにより神経が障害されやすくなっています。また第3趾の骨は動きが少ないのに対して、第4趾の骨は動きが大きいため、第3趾と第4趾の間は神経がより刺激を受けやすいです。幅の狭い靴を履くことで、神経が圧迫を受けて神経障害を起こします。中には神経が腫れて神経腫を形成することもあります。



症状

足の指（足趾）の神経が骨の間に挟まれることにより神経が障害され、足の指の股（趾間）の知覚異常や痛みを起こす疾患です。歩行時、趾間に放散する痛みや痺れ感、中には灼熱感を感じることもあります。知覚異常は特に第3趾と第4趾の間、第2趾と第3趾の間に多くみられます。



診断

以下の症状が認められた場合、モートン神経腫と診断されます。

- 歩行時に足趾の付け根から指先にかけての痛み、しびれ、灼熱感がある。中には安静時にも症状がでることもある。
- 靴を履いているときに症状が強くなり、靴を脱ぐと軽快する。
- 足趾の付け根を横から握り圧迫すると、趾間の痛みや腫瘤がある。

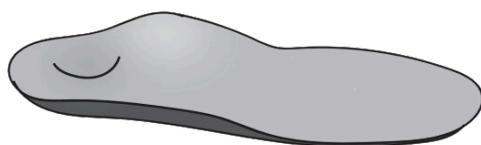
治療

保存療法

- 幅の狭い靴やハイヒールなどの使用を控えます。
- 中足骨バッドや足底挿板を使用します。
- ステロイドと局所麻酔薬の局所注射を行います。数回の注射で約半数に効果があります。

手術療法

- 保存療法を行っても症状の改善がみられない場合には、手術療法を選択することがあります。
- 足背もしくは足底を数センチ切開して靭帯を切り離し、神経腫を切除します。



足底挿板

